

くしろ



釧路の野菜

釧路管内では、冷涼な気候にあった野菜生産栽培が行われています。昨年度は天候不良にもかかわらず、約12億円の生産額がありました。

普及センターでは、安全・安心で高品質な野菜づくりのため、支援を行っています。

写真 左上、左中段左：だいこん（標茶町）

右上、左中段右：ほうれんそう（釧路市）

左下：小かぶ（釧路町）

	所在地	電話・FAX	Eメールアドレス
釧路農業改良普及センター本所	〒088-2313 川上郡標茶町常盤8丁目5番地	Tel:015-485-2514 Fax:015-485-2249	kusirokita-nokai.11 @pref.hokkaido.lg.jp
釧路東部支所	〒088-1365 厚岸郡浜中町茶内橋北東31番地	Tel:0153-65-2021 Fax:0153-65-2037	kushiroto-nokai.11 @pref.hokkaido.lg.jp
釧路中西部支所	〒084-0917 釧路市大楽毛127番地	Tel:0154-57-8306 Fax:0154-57-4702	kushirochu-nokai.11 @pref.hokkaido.lg.jp

ホームページアドレス：<http://www.kushiro.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm>

重点活動の紹介（本所）

みんなの考える“ゆとり”経営とは・・・

弟子屈町上仁多地域で、本年より酪農振興会長が交代し新会長の下で4月26日、農業者、JA、役場農林課の参加で懇談会を開催しました。

懇談会では春の施肥管理、土壌診断結果に基づく施肥設計の紹介や、各戸の繁殖成績の確認と分娩前後管理についての提案など情報交換し、その後、“ゆとり”をテーマにディスカッションを行いました。



“ゆとり”とは・・・有意義な情報交換でした。



新会長の挨拶で懇談会をスタート

「経営の無駄なコストを見直したら、金銭的にゆとりが出た。」「時間的に余裕がないと従業員、家族、後継者との関係もぎくしゃくする。」「TMRセンターなどの支援システムは本当に経営にゆとりをもたらすのか。」など、いろいろな話題でそれぞれの考えが話され、非常に有意義なディスカッションとなりました。

地域の話（東部支所）

放牧フィールドミーティング

浜中町は、全農家の約76%が放牧を行っており、放牧風景が町いっばいに広がっています。JA浜中町ではH25年から「放牧フィールドミーティング」を実施しており、普及センターも共に活動しています。

放牧フィールドミーティングとは、元根釧農業試験場部長の石田亨氏をアドバイザーとしてお招きし、町内の放牧農家へ技術支援を行う活動です。農業者と共に放牧地を歩きながら、放牧の悩み（牛道の泥濘化、雑草対策



新規就農を目指す研修生達に情報提供



放牧地を歩きながら技術支援

など）を聞いたり、放牧地管理のアドバイスを頂いています。

今年度も4月下旬に放牧フィールドミーティングが行われ、牧草の伸び具合等から放牧開始のタイミング・短草利用するためのコツなどを石田氏より情報提供頂きました。農業者からも「準備が出来次第、早々に放牧を開始したい」との声がありました。

普及センターではこの活動を通して、放牧草の有効活用を図っていきます。

ポイントを押さえた対策で子牛の下痢が激減 釧路市音別町 A農場

子牛の下痢の要因は初乳給与状況や飼養環境、栄養状態など多岐にわたるため、もともとなる原因に合わせた対策を行うことが重要です。

今回は下痢の要因を特定し、段階的に対策を行ったA農場の事例を紹介します。

ほ育施設不足が引き金に ～重篤な下痢が多発！

牛舎新築により増頭したA農場では、ほ育ペンは常時満杯で消毒を行う間もありませんでした。また、子牛の移動頻度が高く、重篤な下痢が多発していました。

STEP 1 減乳方法で下痢軽減対策 (H26.夏～)

施設増築の計画はありましたが、下痢軽減は緊急を要したため、獣医師の提案により減乳方法を実践しました。

その結果、再診率は当初の45%から20%まで低下し、軽症化がはかられました。

減乳方法とは...

下痢が多発する時期に一時的にほ乳量を減らし、腸からの吸収を穏やかにする方法。減乳した分は電解質で補い、徐々にミルクの量を戻していく。

※詳細は普及センター中西部支所まで

STEP 2 ほ育舎を新設、施設不足を解消(H27.冬～)

ビニールハウス内にほ育ペンを設置し、下痢の根本原因である施設不足を解消しました(写真1)。

余裕のあるほ育施設

- 子牛の入れ替え時に消毒や乾燥が可能になった。
- 牛の移動回数が減り、移動ストレスがなくなった。



写真1 新設したほ育施設

取り組みの成果

Aさんからは「下痢をしても一度の診療で完治する等、軽症化した。子牛の死亡はほとんどなくなった」との声が聞かれました。

図1は腸炎(下痢)発症状況です。H26以降、下痢の発症が激減しているのがわかります。

成果が上がったポイント(参考になる点)

- 下痢発生要因(施設不足)を特定し、対応した点
- 子牛のストレスを重ねないように配慮し、できること(減乳方法)から段階的に取り組んだ点

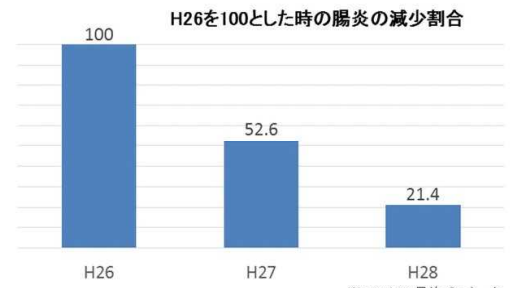


図1 腸炎(下痢)発症状況の変化
※NOSAI診療データより

音別・白糠4Hクラブ「ほ育プロジェクト」 全国青年農業者会議にて農林水産大臣賞受賞

Aさんが所属する音別・白糠4Hクラブでは、H28年度全国青年農業者会議で「哺育プロジェクト」について発表し、農林水産大臣賞(最優秀賞)を受賞しました(写真2)。

プロジェクトで作成した「音別白糠4Hクラブが考える哺育管理(通称:哺育プログラム)」(写真3)には基礎的な内容の他、A農場の取り組みなど実践事例も盛り込まれ、「ほ育管理の重要性が伝わる」と地域の農業者に広く活用されています。



写真3 ほ育プログラム



写真2 全国青年農業者会議にて

平成29年度 普及センターの職員紹介

平成29年4月1日現在



▶ 本所地域係

後列左より：外岡、高倉、金子、菊池
前列左より：川口、佐藤(友)、五十嵐(強)、高木



▶ 東部支所地域係

後列左より：小野、森、後藤、
前列左より：小川(小)、村上、田中



▶ 中西部支所地域係

後列左より：丹羽、佐藤(康)、川村、五十嵐(将)、高橋
前列左より：山崎、沖田、志鎌、植村、成田



▶ 本所広域担当

後列左より：川口、山田、樋口、大畑
前列左より：小川(邦)、西村、米田

西 村 長	本所	五十嵐(強) 次長 標茶町 弟子屈町 釧路町	佐藤(友) 地域係長 高木 主査(地域支援) 川口 主査(畑作)	高倉 専門主任 植月 専門普及指導員 金子 普及職員	外岡 普及職員 菊池 普及職員
	東部支所	村上 支所長 浜中町 厚岸町	小川(小) 地域係長 田中 専門主任 森 専門普及指導員	小野 普及指導員 後藤 普及職員	
	中西部支所	志鎌 支所長 釧路市 白糠町 鶴居村	沖田 地域係長 植村 主査(地域支援) 山崎 専門主任	丹羽 専門主任 佐藤(康) 専門主任 五十嵐(将) 専門主任	川村 普及職員 高橋 普及職員 成田 普及職員
	広域	小川(邦) ※ 主任普及指導員 米田 ※ 主任普及指導員	担い手 情報・ｸﾘｰﾝ・有機 高付加価値化 広域専門(畑作)	山田 主査 大畑 主査 樋口 主査 川口 主査	

(※印は、農業革新支援専門員)

牧草の収穫作業が始まりました。農作業事故に注意して作業を行いましょう！